

# 平成 29 年度事業計画書

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

社会福祉法人

アトリエ

## はじめに

理事長 磯部伸之

社会福祉法人の制度改革によって、4月から新たな役員および評議員で法人運営をすることになりました。しかし、法人理念や基本の施設方針を変えずに、私たちの考える社会福祉として、基盤の障害サービス事業を充実させながら、社会での知的障害者に対する意識の変革を促します。

一方、法人、および、施設の継続のために主な収益事業の生活介護の内容を、開所からのスタイルを若干変更し、利用者のみならず、ご家族の安心感も得られて利用しやすい事業所を考えました。今までの2年間の活動で昼食調理以外の作業がないことが不安も感じてしまう様子を感じているので作業がわかりやすく示しました。昨年の計画にもあった事ですが、古い物を繕う作業を具体的に保護者や支援者の方々へご理解いただける様に表現してあります。

社会の知的障害者への意識変革を求める事と、日々の活動の両面を充実させるための事業計画です。取り組みは先駆的であるために、短期間で数値的な結果も大切と考えていますが、それによって先駆性を失うことなく、出来ることをしっかりと取り組む内容です。ご賛同いただければ幸いです。

# 平成 29 年度事業計画

生活介護 / 就労継続支援 B 型

平成 28 年度は、これまで以上に利用者の個性や日々のゆとりが生まれることで、日常でのそれぞれの役割や過ごし方が確立されてきました。

今年度より、施設名を「オルタレゴ」から「オルタレゴウム」とし、日々の充実に加え、これまで行ってきた日中活動に具体的な「作業」を設けます。そして、利用者の保護者へ向けたパンフレット配布や商品委託等を通して周知を図り、利用者の増員に重きを置きます。関係法令を遵守し、他の社会資源との連携を図った適正且つきめの細かな生活介護サービスの提供をします。

## 【施設理念】

障害者の素晴らしい物の捉え方、古い物を繕うことで生まれる新たな価値。

それらを「生みだす」ということを目的とした施設です。

利用者の個性を引き出し、利用者との関係性を築いていく中で見えてくるものが、健常者の障害者に対する目線を変える、きっかけとなりうる。

## 【経営方針】

「古いものを繕い、新たな価値を生みだす」ことを基本とした作業を行います。

## 【事業・運営計画】

### 1. 生活介護

① 金継ぎ（修繕と販売）② 古道具（修繕と販売）

### 2. 就労継続支援 B 型

① 金継ぎ（修繕と販売）② 古道具（修繕と販売）

## 【数値指標】 生活介護（※B 型の稼働は、職員配置の経費と収益面の試算により見送り）

数値指標	平成 28 年度		平成 29 年度 計画
	実績 (4月~2月)	計画数値	生活介護
利用者定員	6	6	6
利用者延数	993	1188	1320
月稼働日数平均	22.3	22	22
利用者数平均	4.1	4.5	5
稼働率 (%)	68.3	75.0	83.3
稼働延日数	245	264	264
区分平均	4.8	4.5	4.5
単価平均 (一人一日)	¥15,617	¥9,800	¥14,000
収益	¥15,508,357	¥13,642,400	¥18,480,000
職員数 (常勤)	2.9	2.9	2.9
職員数 (非常勤)	0.5	0.5	0.5

【職員】

職 種	員 数	
	常 勤	非 常 勤
施設長・サービス管理責任者	1	
主任 生活支援員	1	
生活支援員・職業支援員	1	2
看護師		1
	嘱託 1	

【職員会議・研修】

会議・研修名	内 容	頻度・時期	参加者
新規利用会議 (アセスメント)	新規の利用者の受入れ時に必要な事を話し合います。	随時	施設長 生活支援員
活動確認会議 (デイミーティング)	利用者の希望をくみあげ活動につなげます。	毎日	全員
対応会議 (ケアカンファレス)	利用者の訴えや生活全般の様子で感じた事を話し合います。	随時 ほぼ毎日	施設長 生活支援員
事故予防会議	活動における危険や施設の安全管理などに対して協議します。	随時 3月頃	有識者 施設長・役員
防災研修	防災時の対応を学び訓練を行います	年2回 4月・9月	全員 消防署員等
虐待防止研修	虐待防止法について理解を深めます	年1回以上 6月頃	有識者 全職員
感染症対策研修	食中毒やウイルス感染等について学びます。	年1回以上 12月頃	有識者 全職員
外部施設研修	外部施設の視察や研修に参加します	年2回以上	全職員
ボランティア研修	オルタレゴの理念によるボランティア向けのワークショップを行います	年2回以上	希望者 全職員